

# 目次

創立五十周年を迎えて

東京学芸大学学長 岡本靖正

創立五十周年に思う

東京学芸大学創立五十周年記念会会長 阿部猛

刊行にあたって

編集委員会委員長 竹内誠

## 序 章 時代と社会背景

第一節 戦後教育史の風景 ..... 1

一 『二十四の瞳』から『人間の壁』まで ..... 1

二 様変わりした高度成長期後の学校社会 ..... 3

三 戦後教育史の四段階 ..... 5

第二節 東京学芸大学五十年史の時期区分 ..... 7

## 第一章 学部のおゆみ

目次 第一節 教育界と東京学芸大学 ..... 13

一 戦後教育改革における教員養成の出發と東京学芸大学	14
(一) 「教員養成を主とする」大学・学部の新設	
(二) 戦後初期の教員養成力リキラム研究と東京学芸大学	
(三) 「学芸大学」構想の展開と師範学校の大学転換	
二 整備・統合期(一九四九～六三年)	19
(一) 東京学芸大学の創設	
(二) 教育職員免許法の公布と日本教育大学協会の設立	
(三) 初代学長が描いた大学像	
(四) 戦後教育改革の推進・普及と東京学芸大学	
(五) 一九五三・一九五四年免許法改正と東京学芸大学	
(六) 一九五八年中教審答申と東京学芸大学	
三 拡充・発展期(一九六四～七五年)	32
(一) 「課程 学科目」制実施と学部名称変更	
(二) 一九六五・一九六六年教養審建議と一九七一年中教審答申	
(三) 本学の拡充・発展と葛藤	
四 展開期(一九七六～八六年)	38
(一) 新構想教育大学の施設と大学院増設	

目次	
(一)	学内におけるカリキュラム弾力化への志向性
(二)	教員養成における質的・量的充実の実績
(三)	教員需要減少のきざしと教員養成をめぐる諸矛盾
(四)	教員需要減少のきざしと教員養成をめぐる諸矛盾
五	転換期（一九八七年）現在）
(一)	大学改革・行政改革・少子化の波
(二)	大学改革と教員養成改革のはざま
(三)	教育を対象とする幅広い学問の研究・教育への期待
<b>第二節</b>	<b>組織・建物・環境</b>
一	教育・研究組織
(一)	大学としての教育研究組織の模索と「課程 学科目制」問題
(二)	二部制教育研究組織から新たな組織原理による三部制へ
(三)	三部制から四部制へ
(四)	新課程設置に伴う教育研究組織の改組
(五)	国立大学教員養成課程の入学定員削減計画への対応
二	管理運営組織
(一)	整備・統合期（一九四九～六三年）
(二)	拡充・発展期（一九六四～七五年）から展開期（一九七六～八六年）
	90
	55
	55
	47

(三) 転換期（一九八七年）現在）	
三 入学試験 選抜単位数の推移について	99
(一) 整備・統合期	
(二) 拡充・発展期	
(三) 展 開 期	
(四) 転 換 期	
四 敷地・建物・環境	103
(一) 敷 地	
(二) 建物と環境	
<b>第三節 教育課程</b>	121
一 新制「大学」での教員養成カリキュラムの模索	121
(一) 「東京第一師範学校案」の先見性	
(二) 大学の発足と「東京学芸大学カリキュラム暫定案」	
(三) 『東京学芸大学カリキュラム』の制定	
(四) 『東京学芸大学カリキュラム』の第一次改訂	135
二 『東京学芸大学カリキュラム』の第二次改訂	135
三 『東京学芸大学カリキュラム』の第三次改訂	139

目次	
四 教養系設置による多様化とカリキュラム	143
(一) 教養系カリキュラムの策定	
(二) 教養系カリキュラムの全面改訂	
(三) 『東京学芸大学カリキュラム』の第四次改訂	
第四節 学生生活	151
一 東京学芸芸大学生の誕生	151
(一) 教育者になるうとする学生たち、教育研究の伝統	
(二) 学生運動のテイクオフ	
(三) 新制大学コンプレックスからの脱皮と教育実践	
(四) 苦悩する大学	
二 危機意識の中の学生たち	161
(一) 「養護学校と義務制問題」学生のクライシス感	
(二) 寮問題	
(三) 第一次教員就職難の時代	
(四) 大学の国際化と外国人留学生	
三 行動を始めた学生たち	171
(一) 「モータリゼーション」	

(一)	大学祭から小金井祭へ	
四	学生生活の新しい展開	175
(一)	交通戦争	
(二)	課外活動共用施設に関する学生と学生部長の調印・概算要求	
(三)	外国人留学生の激増	
(四)	留学生教育研究センターの設置	
(五)	国際交流会館の建設と大学間交流の開始	
(六)	教員就職の冬の時代	
(七)	サークル活動	
(八)	キャンパス生活と学生保険	
(九)	今日の学生	
(一〇)	大学の変身への試み	
<b>第五節</b>	<b>教職員の研究と生活</b>	196
一	教員の研究活動	196
(一)	研究環境の変遷	
(二)	科学研究費補助金の採択	
(三)	奨学寄付金の受け入れ	

	(四)	研究論文頁数	
	(五)	博士号取得者数	
	(六)	東京学芸大学出身教員の数	
	(七)	教員の外国での研修	
	二	教職員の生活	210
	(一)	助手の三年任期制の廃止	
	(二)	宿直・日直の廃止	
	(三)	女性教職員の待遇改善と権利擁護	
	(四)	事務組織の再編と勤務環境	
	(五)	学長選挙	
		<b>第二章 大学院・専攻科のあゆみ</b>	
		<b>第一節 専攻科</b>	219
		<b>第二節 大学院修士課程 教育学研究科</b>	223
次	一	設置までの経緯	223
	二	設置された修士課程の骨格	225
目	三	設置後の経緯	228

四	夜間大学院（修士課程）の創設と大講座編成	229
五	研究科運営組織の変遷	233
六	学生数の推移	235
	<b>第三節 大学院博士課程 連合学校教育学研究科</b>	237
一	博士課程への願い	237
二	設置準備	240
三	連合学校教育学研究科の骨格	242
四	研究科の運営	244
五	残された課題	244
	<b>第三章 附属図書館施設・センター 附属学校のあゆみ</b>	
	<b>第一節 附属図書館</b>	247
一	附属図書館の発足から小金井本館の完成まで	247
二	附属図書館の統合から新館の完成まで	250
三	新図書館における図書館活動の展開	256



四	より良い図書館をめざして	268
<b>第二節 施設・センター</b>		
一	省令施設と学内施設	282
二	東京学芸大学教育研究所	283
三	教育学部附属施設・センター	287
(一)	附属特殊教育研究施設	
(二)	附属環境教育実践施設	
(三)	附属教育実践総合センター	
四	大学附置省令施設	305
(一)	海外子女教育センター（全国共同利用施設）	
(二)	保健管理センター	
(三)	留学生センター	
五	学内施設	312
(一)	情報処理センター	
(二)	有害廃棄物処理施設	
(三)	放射性同位元素総合実験施設	

第三節 附属学校

一 附属高等学校 ..... 318

(一) 附属高等学校

(二) 附属高等学校大泉校舎

二 附属養護学校 ..... 323

三 附属中学校 ..... 325

(一) 附属世田谷中学校

(二) 附属小金井中学校

(三) 附属大泉中学校

(四) 附属竹早中学校

四 附属小学校 ..... 332

(一) 附属世田谷小学校

(二) 附属小金井小学校

(三) 附属大泉小学校

(四) 附属竹早小学校

五 附属幼稚園(小金井園舎・竹早園舎) ..... 342

## 第四章 同窓会のあゆみ

### 第一節 師範学校時代の同窓会

- 一 七杉会の結成……………347
- 二 東京府師範学校同窓会の誕生……………347
- 三 東京府女子師範学校同窓会……………348
- 四 東京府立師範学校同窓会……………350
- 五 戦時中の同窓会……………351
- 六 同窓会活動の再開……………353

### 第二節 東京学芸大学同窓会

- 一 東京学芸大学同窓会の誕生……………355
- 二 東京学芸大学同窓会研修の特質と課題……………361
- 三 東京学芸大学同窓会名簿の発行……………363
- 四 東京学芸大学教育研究会の発足と『**學藝**』の発刊……………364
- 五 東京学芸大学学生後援会の誕生……………368
- 六 新時代の東京学芸大学同窓会……………369

七	東京学芸大学同窓会の展望	372
	<b>補章 大学前史</b>	
	<b>第一節 戦前期の教育界と師範学校</b>	377
	<b>第二節 東京府における師範学校の成立と発展</b>	383
	<b>第三節 師範学校の生活</b>	398
一	学科課程と生徒	398
二	生徒募集と入学者	403
三	授業と学校行事	411
四	寄宿舎生活と校友会	418
	年表	425
	編集後記	
	編集委員会名簿	
	執筆分担	
	コラム「けやきの碑」	107
	座談会 同窓会活動・学生群像を語る	153

目 次

東京学芸大学学獅会、サークル棟	193
女子バレーボール部	194
大学日本一に！	